

600兆円経済の実現に向けて

～ 「政策コメンテーターから寄せられた具体的提案例」 ～

平成28年 3月11日

伊藤 元重

政策コメンテーター委員会 会長

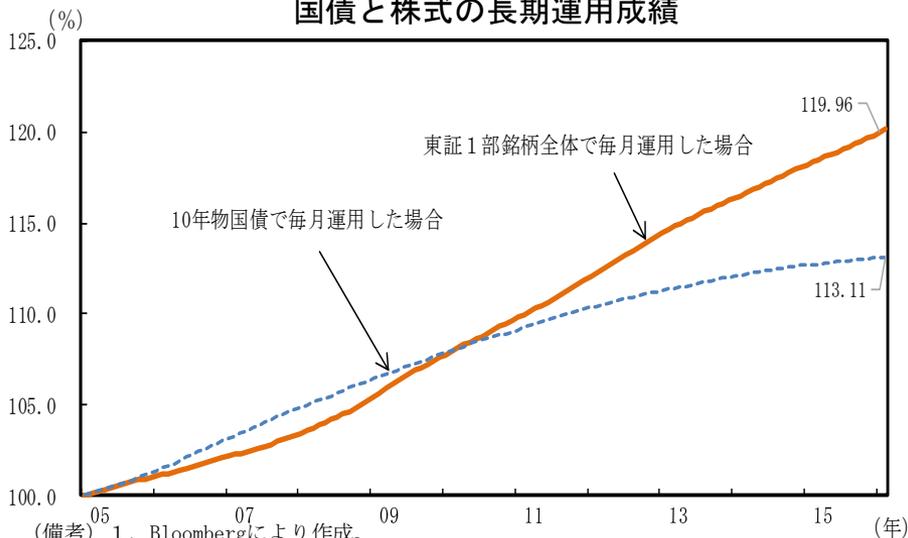
◆ 600兆円経済の実現に向けた取組について、政策コメンテーターから多くの具体的提案が寄せられた（配付資料参照）。例えば、以下のような提案。

- マイナス金利導入に呼応して、NISA・ジュニアNISAの恒久化等も含めた利便性向上を通じて、「貯蓄から投資へ」を推進すべき。

- 地域観光資源の活用拡大に向けインフラ整備を官民連携で推進。那覇港第2専用バスや他地域等、クルーズ船の寄港可能な港の整備が喫緊の課題。

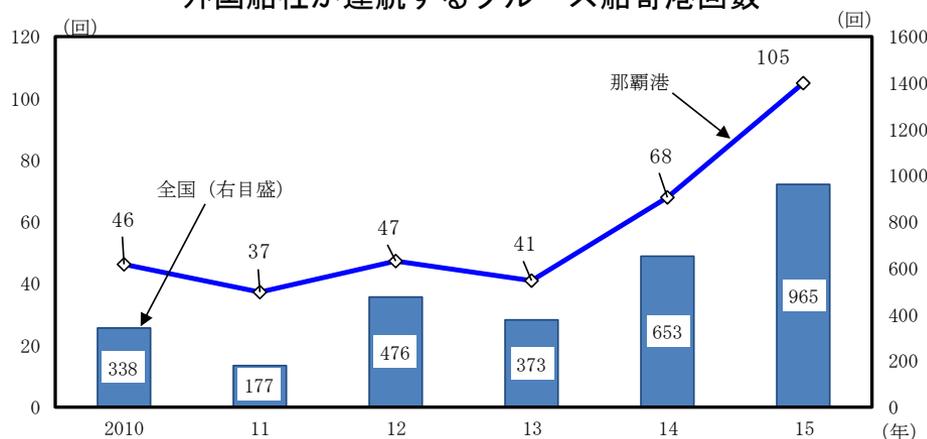
例えば、2005年1月から国債と株式それぞれの累積投資パフォーマンスを比較すると、10年後（2015年12月末）では国債（利子）運用が+13%に対し、株式（配当）運用は+20%の増加（キャピタルゲインを含めず）。

国債と株式の長期運用成績



(備考) 1. Bloombergにより作成。
 2. 月次月中平均利回りを1/12乗づく累積した結果。税制や手数料は考慮していない。
 3. 東証1部平均配当利回りは、東証1部上場企業の1株当たりの年間配当金の合計を株価の合計で除した単純平均。

外国船社が運航するクルーズ船寄港回数



(備考) : 国土交通省「2015年のクルーズ船の寄港実績等について(速報値)」により作成。2015年は速報値。

那覇港では2015年以降過密等を理由に寄港の予約を断るケースの報道あり。クルーズ船用バスが1つしかなく、大型船の寄港や同日に複数の寄港申請がある場合は貨物船バスも併用中。石垣港や平良港では、貨物や砂・鉄くずを取り扱う岸壁でクルーズを受け入れ。

那覇港では新たなクルーズ船用バスの候補地を検討中。石垣港では2年後を目標として5万トン級までのクルーズ船の受け入れ岸壁を整備中。平良港では複合一貫輸送ターミナルを整備中。